

健康経営のISO化

Wellbeing Management System Standard

(中間報告 1)

2020.7.16

一般社団法人 社会的健康戦略研究所

代表理事 浅野健一郎

世界に先駆け超高齢社会に突入した日本

健康経営先進国日本の 世界に果たすべき役割

日本発で

健康経営から世界を変える

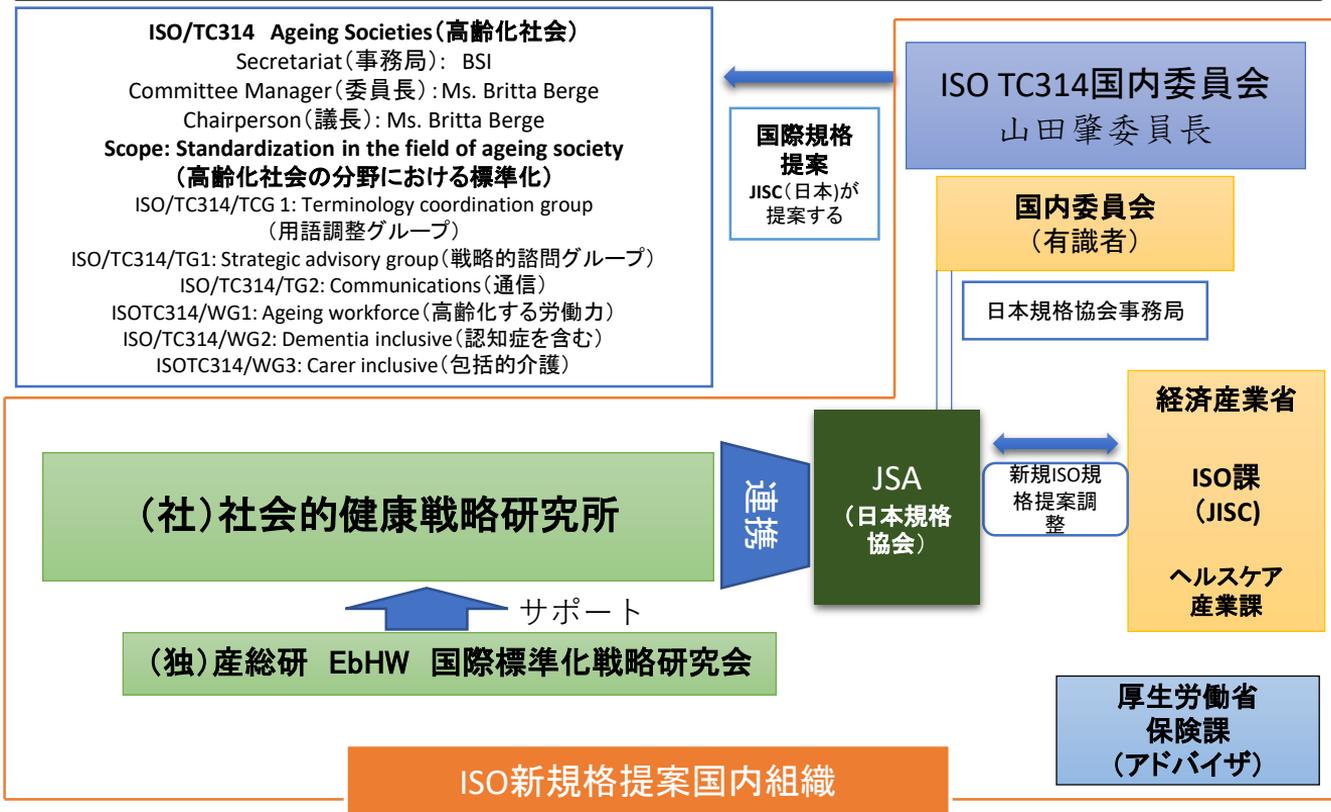
世界の社会課題解決と日本の経済発展の両立が
持続的にできる日本へ

日本主導で、世界の課題を解決

- 日本の健康経営のエッセンスを世界標準の形にして、世界に普及させる
 - ポリシー
 - プロセス
 - 手法、デバイス、指標等々
- ＊□日本の健康経営を世界へ普及
 - →世界の社会課題解決
 - →日本のヘルスケア産業の発展
 - →日本の経済、社会課題解決



規格化の日本国内体制



国内委員会 委員・顧問一覧

名前 (敬称略)	所属	備考
浅野健一郎	社会的健康戦略研究所	委員長 エキスパート
佐藤洋	産業技術総合研究所	エキスパート (PL)
大石佳能子	メディアヴァ	エキスパート
森晃爾	産業医科大学	TC283国内委員
山田肇	東洋大学	親委員会 委員長
磯博康	大阪大学	
藤原武男	東京医科歯科大学	
石田陽子	心陽	
山本雄士	ミナケア	
岡田 真平	身体教育医学研究所	
佐藤光弘	富士通ゼネラル	

名前 (敬称略)	所属	備考
橋本明彩代	日本政策投資銀行	
高橋昭彦	産業技術総合研究所	
関山守	産業技術総合研究所	
安川拓次	花王	
以下、顧問 (アドバイザー)		
イチロー・カワチ	ハーバード公衆衛生大学院	
岡田邦夫	健康経営研究会	
古井祐司	東京大学	
以下、関係者		
経産省ヘルスケア産業課、国際標準課、厚生労働省保険課、労働衛生課、日本規格協会		

健康経営の1号規格の骨子（案）

✓ 取り組みの意義、意味

- ✓ 経営活動と社会課題解決の両立
- ✓ 高齢社会における企業・団体・組織の社会的役割・責務

✓ 持続可能な取り組み

- ✓ 経営目的達成のための取り組み
- ✓ 経営者のコミットメントと関与
- ✓ 経営目的の視点からの投資効果の見える化

✓ 継続させる仕組み

- ✓ OODA（PDCA含む）ループの構築
- ✓ 組織の設置と役割の明確化
- ✓ 遂行者の教育・訓練

✓ 効率的な運用の要点

- ✓ 現状把握
- ✓ ステイクホルダとの協働
- ✓ 外部リソースの活用

✓ 留意事項

- ✓ 産業保健、産業衛生活動とのシームレスな関係性の構築
- ✓ 投資効果の考え方
- ✓ 社会疫学的アプローチの実践

これらの骨子案を叩き台として、国内委員会にて具体的な規格を策定していく

規格案 一般原則

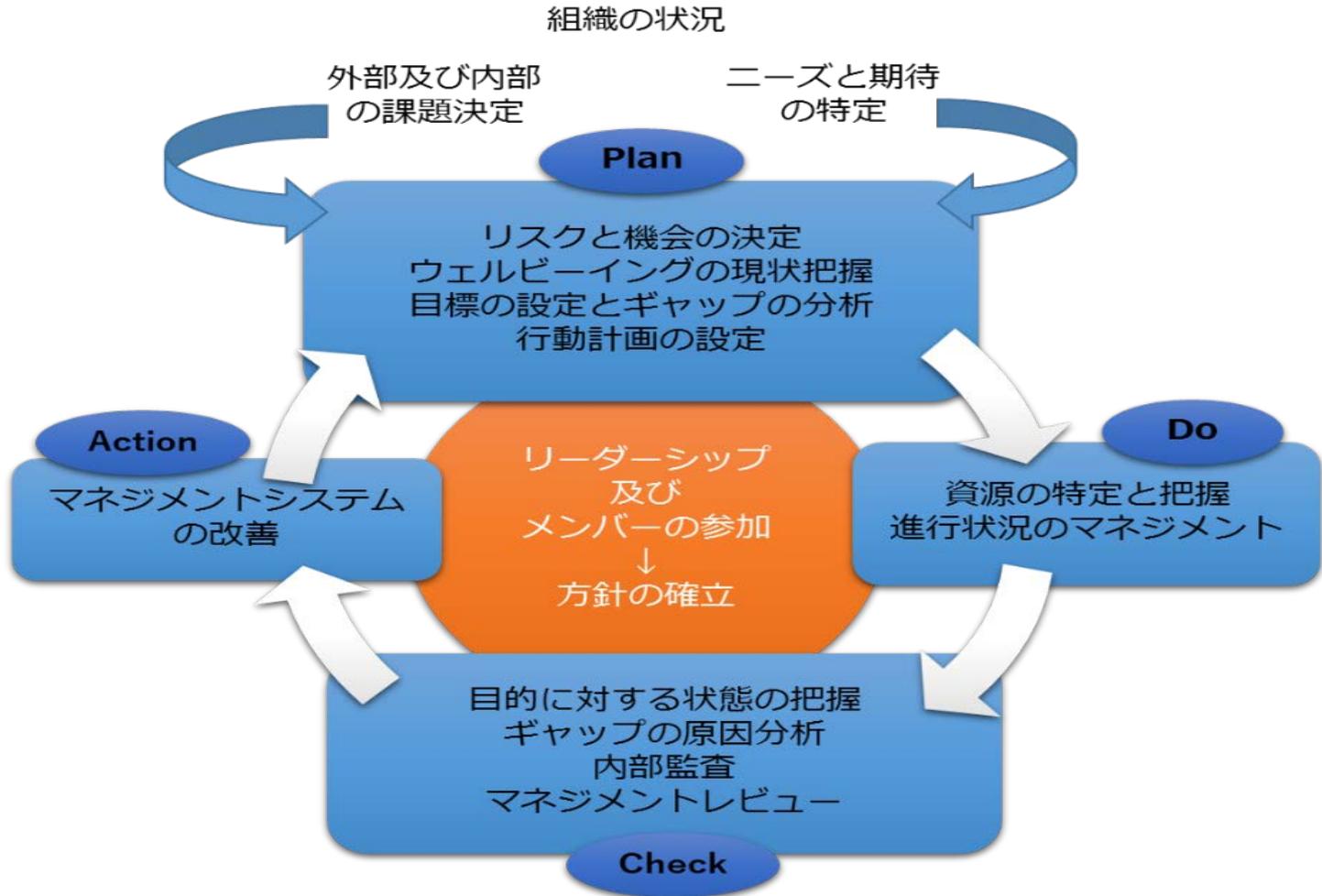
1. この規格は達成目標として、世界的な高齢化社会に対応する組織内のウェルビーイングを特徴付ける次の七つの原則を提示する。
2. 高齢化社会における社会の持続可能性を高めるために、社会を構成する組織として、企業、団体、地域社会等を対象として、その組織の持続可能性を高めるとともに、組織に属するメンバーのウェルビーイングを向上させることを目的とする。
3. WHO憲章で明示される「健康」の定義に従い、ウェルビーイングの社会、身体、精神の3つの状態をバランスよく向上させることを目指す。
4. 対象は、高齢者及び障害者を含め、組織に属するメンバーの全てとし、SDGsのポリシーである「誰一人として取り残さない」ことを目指す。
5. 組織は、本目的達成のために組織に属するメンバーのデータ等の情報を収集し、組織に属するメンバーのウェルビーイングと組織の持続性向上に活用するとともに、情報の管理を適切に実施する。
6. メンバー及び組織のデータ等の情報は、生物統計学や社会疫学等の科学的なエビデンスと妥当性に裏打ちされた手法で利活用する。
7. 強固で倫理的な関係、協調的かつコミュニケーション重視のマネジメントスタイル、学習及び開発が奨励される組織風土を育成する。
8. 多様性及びインクルージョン¹⁾を、組織力として活用する。

注1) インクルージョンとは、高齢者、障害者、非正規雇用などを含む組織内の誰でもが参画・活用する機会が与えられる様をいう。

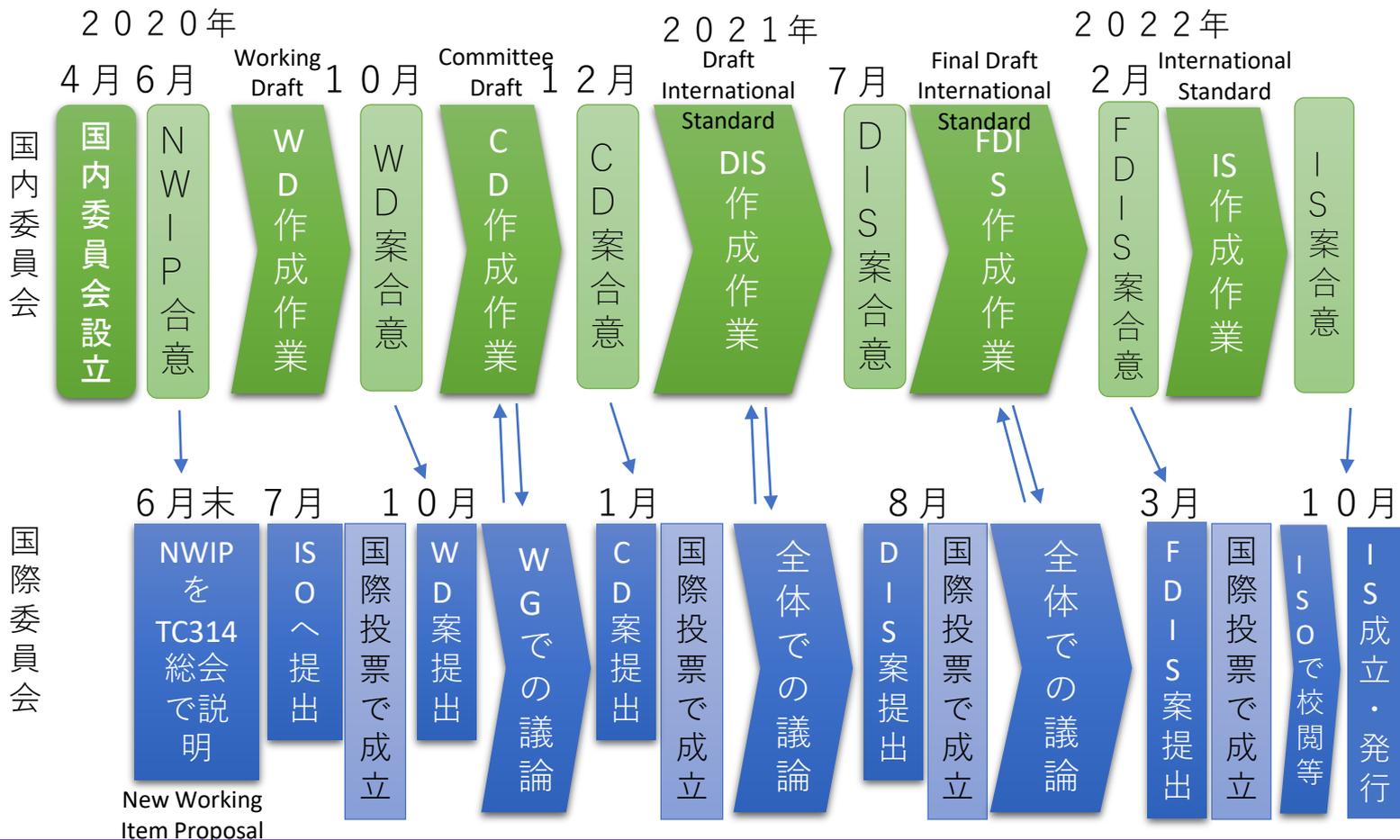
1 適用範囲

- ✓この規格は、高齢化社会に対応する組織及びメンバーのウェルビーイングを確立し、向上させ、維持し、見直すためのマネジメントシステムの要求事項及び手引について規定する。
- ✓この規格は、どのようにウェルビーイングの向上を組織環境に組み込み、利用可能なウェルビーイング関連サービスによってどのようにリーダーシップが実証されるかを考慮する。
- ✓この規格は、組織の規模、種類及び性質にかかわらず、いかなる組織にも適用することができる。

PDCA サイクル



規格策定スケジュール（最短の場合）



スケジュールの変更

- 新型コロナの影響で、TC314総会が、シンガポール開催からWEB開催に変更（6月→7月3日）
- TC 283（労働安全衛生：ISO 4 5 0 0シリーズ）との調整作業に遅れ（事務局調整：BSI）

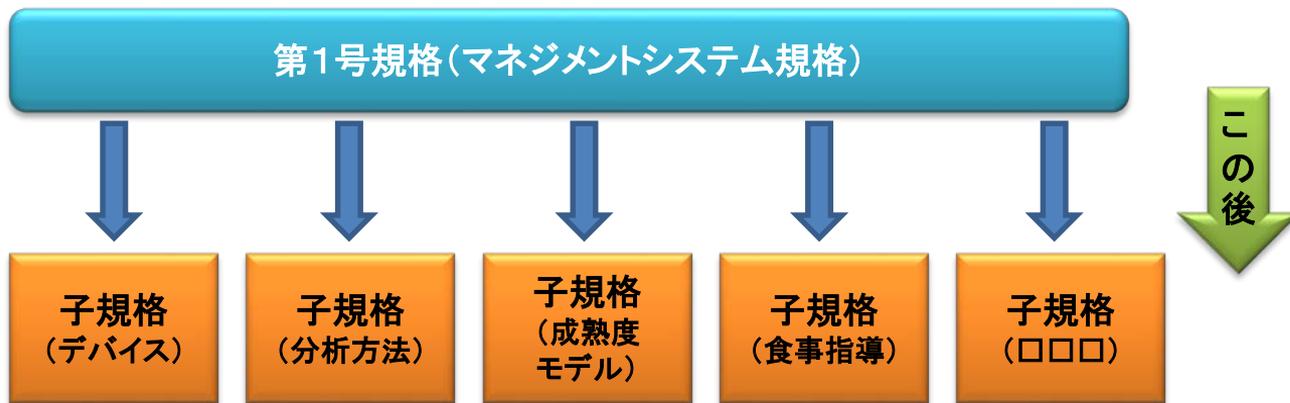
→NWIP提案を今回の総会では、断念

→TG01（運営委員会：8月開催）で、新規提案の説明を進める方針に変更

全体計画の遅れは、2～3ヶ月と推定

第1号規格に続くシリーズ規格の構想

- ◆ この規格はマネジメントシステム規格である。規格内での機能とその水準を規定する規格ではなく、組織としてウェルビーイングを達成するためのマネジメントシステムをどのように作ったらよいというガイダンスを与える規格である。
- ◆ 将来、個別具体的な目的を持つ規格は、この規格の子規格・孫規格として作成される。



子規格の規格化については、今年度中に開始予定

ご清聴ありがとうございました。